

アクティブ・ラーニングのための ラグビーノートのデザイン検討

Development of a Study Notebook to Facilitate Students Active Learning in Rugby Classes

藤野良孝*¹ 梶山俊仁*¹ 中本光彦*² 庄司直人*¹ 古田久*³

Yoshitaka FUJINO, Toshihito KAJIYAMA, Mitsuhiro NAKAMOTO, Naoto SHOJI, Hisashi FURUTA

要旨

スポーツ学部的女子学生 18 名を対象に、アクティブ・ラーニング型のラグビー実技で使用されるラグビーノートの特徴を分析し、得られた特徴に基づきながらラグビーノートのデザイン検討・評価を行った。ノートからは、7 つの特徴(ポイント、PR、点数、色彩、絵、写真、図形)が抽出された。7 つの特徴を核に、学修促進を勘案したノートを形式的にデザインし、その有用性について体育会女子学生 16 名に調査した結果、「ノートを使ってみたくなる。」「授業が楽しくなる。」「頭のなかでやるべきことが分かる。」「教員とコミュニケーションがとれそう。」が肯定的に評価され、学修活動の質を向上させる可能性が示唆された。

1. はじめに

大学の教育方法として、学修者が能動的に学修するアクティブ・ラーニング(2012^a)の取り組みが全学的に実施されている。アクティブ・ラーニングが全学的に導入された背景は、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けての答申」(文部科学省 2012^b)が契機となり、取り組まれるようになった。日本私立学校振興・共済事業団(2016)の調査では、352 大学(64.0%)がアクティブ・ラーニングを実施、学部としては 976 学部(61.9%)が実施していることを報告している。このアクティブ・ラーニングの実施にあたり、学修活動を促し、質の向上を図るためには、科目の特色(講義型・実技型)、学生の視座に立った教材提供、運営が求められている。

本研究では、体育実技(ラグビーフットボール、以下ラグビーとする)のアクティブ・ラーニングで使用される教材に着目する。体育の理論的・実践的なアクティブ・ラーニングは、これまでにダンス(高橋 2015, 村田 2016, 飯田 2016, 八木 2017)、ボールゲーム(黒岩ほか 2017)を含め数多く実施されてきた。だが、アクティブ・ラーニングで用いる教材に着目した研究(相馬 2017)、ノートに特化した研究(武井 2017)は報告数が少ない。我々が着目しているラグビー・ノートに関しては、部活用(サンスター 2014)、競技力向上・強化を目的に制作されたノート(関西ラグビーフットボール協会 2016, 城野印刷所 2015)が公表されているものの、大学生を対象にしたアクティブ・ラーニングの学修促進を目的として制作されたノートは殆ど見当たらない。そこで、本稿ではラグビーのアクティブ・ラーニング教材として用いるラグビーノートにフォーカスし、ノートの(1)「特徴抽出」、(2)「デザイン検討」、(3)「評価」を行い、学修活動の促進及び質の向上に役立つノートを提案することを目的とした。

2. ラグビーノートの概要

2.1. ノート提供者と作成プロセス

アクティブ・ラーニング型のラグビー実技を受講している A 大学のスポーツ女子学生 19 名から、4 冊のノートを提供してもらった。ノートは、1 チーム 9~10 名で構成される 2 つのチームに、それぞれ 2 冊配布し作成させた。ノートは、便宜上 1~4 の番号を振り分けた。

ノートは、授業後にチーム内でローテーションを決めて 1 人ずつ好きなように記述させ、その日のうちに担当教員に渡した。翌週、担当教員からチーム別にノートが返却され、チームで情報共有しながら全 15 回の授業ノートを作成した(図 1)。

2.2. ラグビーノートの特徴

ノートの特徴抽出は、共同研究者と議論を行いながら「学修活動を促す、質を高める」可能性が期待される特徴をグループ化し項目のピックアップを行った(図 2)。

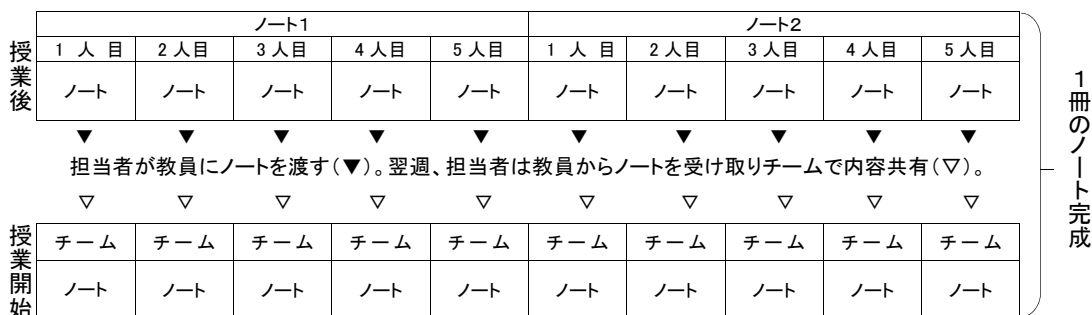


図 1 ノート作成のプロセス

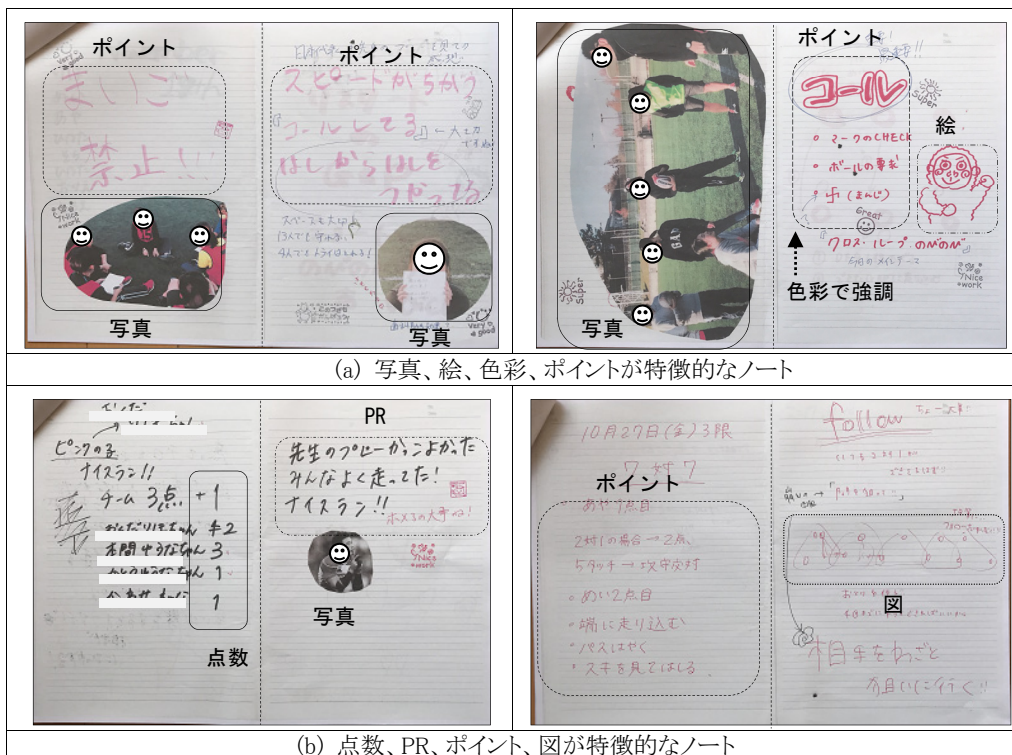


図 2 ノートの構成特徴

表 1 に、回収したラグビーノート 4 冊に見られた代表的特徴 7 点を示す。ノートに該当する特徴に、「+」の印を付与した。以下に、代表的な特徴 7 点について述べてゆく。

【特徴 1:ポイント】講義で学んだラグビーの戦術内容やラグビーの運動能力に必要とされる技術的側面、実技での目標設定、ゲームから得られた良い点、悪い点などが具体的に記述されていた。これらの内容をまとめたものを『ポイント』と定義した。

【特徴 2:PR】たとえば、「先生のプレーかっこよかった。みんなよく走ってた！ナイスラン！！」のように、教員とのコミュニケーションを図る内容や自身とチームプレーなどの存在感を示す内容が記述されていた。自己とチームの宣伝文言や教員との関係性を構築させる内容を併せたものを『PR』と定義した。

【特徴 3:点数】ラグビーゲームの運動パフォーマンスを、個の得点とチームの得点に分けて評価していた。運動パフォーマンスに関する内容を数値化し、評価したものを『点数』として定義した。

【特徴 4:色彩】授業の学修内容やゲームでの振り返り内容について、通常黒文字で記述するのではなく、赤などのカラーペンを活用して記述していた。ここでは、黒ペン以外で記載した内容をまとめて『色彩』と定義した。

【特徴 5:絵】ノートを楽しむために、教員の似顔絵や動物の絵などが描かれていた。また、プロが書いたイラストなどがアクセントとしてノートに貼付されていた。自身が描いたものとプロが描いたものを『絵』として定義した。

【特徴 6:写真】ラグビーの戦術やゲームの振り返りを議論している様子を撮った写真や、練習風景などの写真が貼付されていた。憧れのラグビー選手の写真も見られた。ラグビーに関連したフォト、映像などの撮影物をまとめて『写真』と定義した。

【特徴 7:図】ゲーム戦術や技術内容について、ポジションや動きの関係性を抽象化し記したものを『図』と定義した。

教員は、上記を確認した後、ノートにポイントや親密感、一体感が生まれるコメントを返した(表 2)。

表 1 ラグビーノートの構成特徴

ノート No	文字		工夫				
	ポイント	P R	点数	色彩	絵	写真	図
1	+	+	+	+	+	+	+
2	+			+	+	+	+
3	+	+	+	+	+	+	+
4	+			+	+		+

注) 構成特徴は、1 ページごとの特徴ではなく、1 冊の中で見られた全体的特徴を+で記した。

表 2 コメントの例

【 学生側の記述 】	【 教員側の記述 】
タッチされたらすぐ投げる!!	速攻！とてもよい攻撃なのです。
空いているスペースにすぐに 1 人でも必ず入る。	キーワードだね(空いているスペース)
○○ちゃん、○○ナイス♥	ホメルの大事
後の人はボールを持っている人に声をかけてあげる。	優しさ。仲間が何か欲しいか考え感じる。
困ったら先生にパス	まあね～(^ ^)
1 人はどこかしらに行く。	迷子になっちゃうよ・・・

※名前は○○に置き換えて表記した。

2.3. ラグビーノートのデザイン

ラグビーノートのデザインは、研究代表者 1 名、ラグビー指導に従事する共同研究者 2 名と、教育学的な視点(ここでは分かりやすさ、楽しさ)に立った議論を行い、Microsoft PowerPoint 2016 を用いて、**図 3** に示したノートを B5 サイズ(182mm×257mm)で作成した。ノートは、学生が色ペンなどを活用することを踏まえて、全体的にモノクロ基調でシンプルにデザインした。まず見開き左側のトップは、①月日、何限目、何回目を記載する。その下に、②「今日のテーマ」を記載する枠、③ゲームや練習で上手くできたことの Good 評価(□とても、□やや)と Bad 評価(□とても、□やや)を☑する欄および④その様子を表現するスペース(イラストや写真を貼付)を作った。更に、最下部には⑤ゲームや練習で優れた動きをしてくれた人の名前と点数を評価する Best Player 欄を作った。

見開き右側のトップは、個やチームを PR する場として、⑥「何か一言どうぞ」という枠を用意した。その下に、良くなかった動きを振り返る、反省するメモ用に⑦「Bad Play」、良かった動きを振り返る、点数化する、次回も出来るようにするメモ用に⑧「Good Play」のスペースを作った。最下部は、提出されたノートを教員が読んで、⑨コメントを一言記述する欄を設けた。

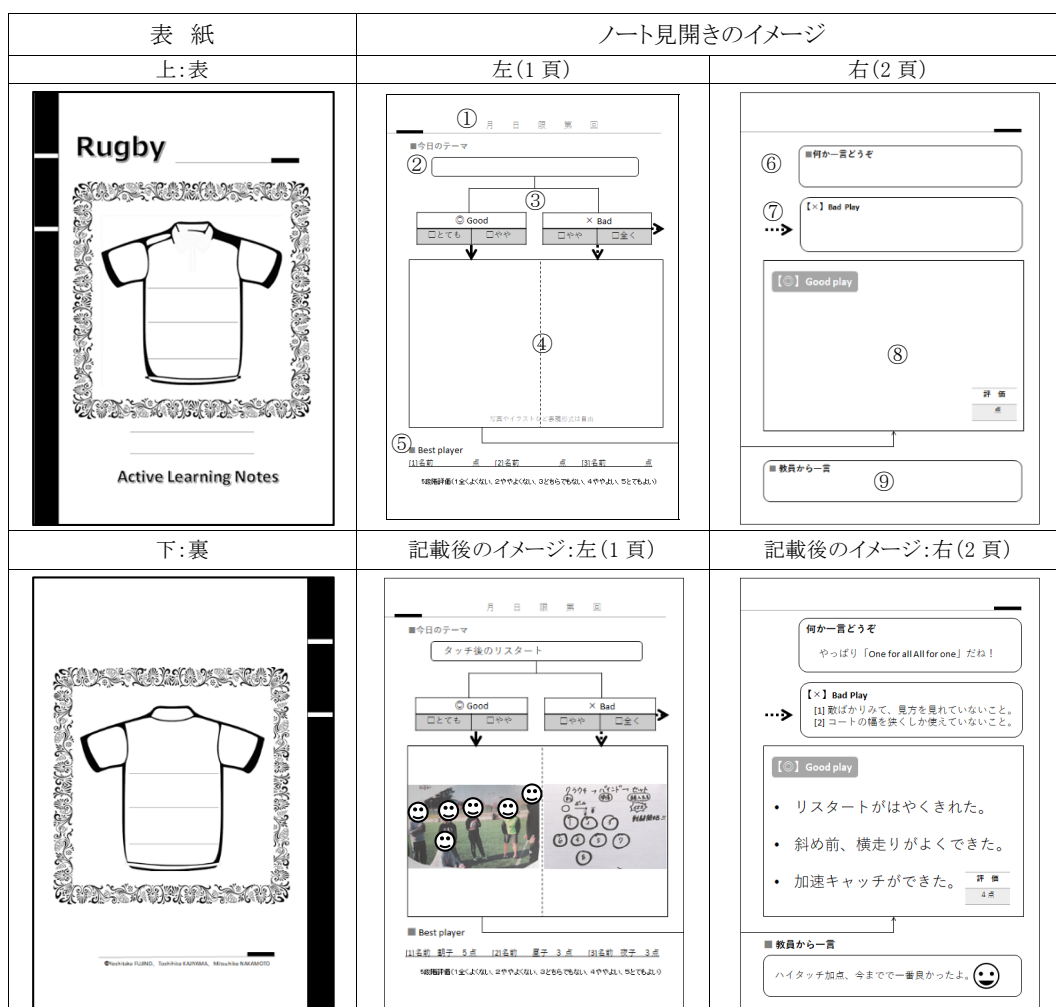


図 3 ノートのデザイン(上段)と使用イメージ(下段)

3. 評価

3.1. 調査協力者

2018年3月8日、体育会に所属するB大学の女子学生16名(平均19.88歳)。なお、指導者および女子学生から、本研究の同意(名前のサイン)を得たもののみを対象にした。

3.2. 質問紙

質問は、「(1)ノートを使ってみたくなる。」「(2)ノートを作りたくなる。」「(3)授業が楽しくなる。」「(4)頭のなかでやるべきことが分かる。」「(5)ノートを繰り返し読みたくなる。」「(6)継続して書けそう。」「(7)教員とコミュニケーションがとれそう。」の7設問であった。回答は「1. 全く思わない」「2. やや思わない」「3. どちらともいえない」「4. やや思う」「5. 強く思う」の5件法で求めた。最後に、「ノートを見て感じたこと、気づいたこと何でも結構ですのでお書き下さい。」について自由記述を求めた。

質問紙を配布した後に、共同研究者1名から「倫理的な取り扱いの説明」、「ラグビーノートを実技で使用していることをイメージした回答」、「回答はもっとも当てはまる番号1つに☑」を口頭で説明し、より正確な回答が得られるように求めた。

3.3. 結果と考察

表3に、7設問の結果を示す。(6)以外の設問は、平均3.25~4.38と概ね肯定的に評価されていることが分かった。最も高評価(4.38)であった「(4)頭のなかでやるべきことが分かる。」について考察すると、ノートの活用によって、教員から教わった技術や戦術を文字や図を用いて理解を図ることができ、結果として運動の質の向上に寄与する可能性が窺える。

2番目に高評価(4.13)であった「(7)教員とコミュニケーションがとれそう。」について考察すると、「教員からの一言」のコメントをはじめ「何か一言どうぞ」の欄にあるように、授業とは無関係のメッセージも記載ができ自由にチーム・自己PRできることが、親近感を齎し評価に影響を及ぼした可能性が考えられる。その他、「(3)授業が楽しくなる(3.75)。「(1)ノートを使ってみたくなる(3.63)。」も比較的高値を記したことから、学修継続意欲や能動的な学修活動に正の影響を与えることが推察される。

他方で、「(2)ノートを作りたくなる。」「(5)ノートを繰り返し読みたくなる。」「(6)継続して書けそう。」は統計的に有意ではなかった。

特に(2)、(6)については、毎回、担当者がノートを作りチームのメンバーに見られることへのプレッシャーが負の影響を与えたことが予見される。

これらの効果を高めるため

には、相互に確認、評価することの有用性を理解させ、徐々にその利点に馴染ませてゆくことが効果的であると考えられる。

(5)については、自分が書いたノートをチームメンバーが

表3 ラグビーノートの評価結果

評価項目	Ave (SD)
(1) ノートを使ってみたくなる。	3.63 (1.09)
(2) ノートを作りたくなる。	3.25 (1.13)
(3) 授業が楽しくなる。	3.75 (0.77)
(4) 頭のなかでやるべきことが分かる。	4.38 (0.72)
(5) ノートを繰り返し読みたくなる。	3.50 (1.15)
(6) 継続して書けそう。	2.94 (1.29)
(7) 教員とコミュニケーションがとれそう。	4.13 (0.81)

読んで、気づいたことや分かったことを赤ペンなどで書き記し、レスポンスすることで、ノートを読み返したくなる気持ちが醸成される可能性がある。

表 4 に、自由記述の代表的な結果を示す。統計的に有意であった設問を裏付ける記述として、(4)は「分かりやすくまとめられていて、見やすく、覚えやすそう。」「やるべきことややり方などが分かりやすそうだと思います。」「テストの時とか勉強しやすそう。ノートを使ってスポーツの記録などわかりやすい。」などの記述、

(7)は「自分でノートを書いて提出したときに教員サインだけでなくコメントをもらえると嬉しい。」「ノートを使っての意思疎通もスポーツに重要だと思った。」などの記述があった。(1)、(3)に関連する記述としては「写真などが使われておりとても見やすい。」が挙げられる。

回収した女子学生のノートを見ても、楽しそうな写真を貼付しており、ノートを使いたくなるような工夫が感じられた。最も評価が低かった「(6)継続して書けそう」は、「内容が簡単ですぐに書けそうなので継続できそう。」との記述がある反面、「毎日書くと、何日か同じことを書いてしたりしまいそう。」という間違った解釈をした回答者もいたことがマイナスの評価に作用した可能性がある。

4. ま と め

本研究では、アクティブ・ラーニング形態のラグビー授業で使用された学生のノートを分析し、そこで得られた代表的な特徴に基づきながらノートのデザイン検討並びにノートの評価を行い、次のような結論が示された。

- ・回収したノート 4 冊を総合的に見たところ、『ポイント』『PR』『点数』『色彩』『絵』『写真』『図』の計 7 つの特徴が示された。
- ・ノートの構成は、「月日、何限目、何回目」「今日のテーマ」「ゲームや練習で上手くできたことの Good と Bad 評価とメモ、それを示す表現スペース」「ゲームや練習で優れていた人の名前と点数評価」「個やチームを PR する枠」「教員のコメント」の各項目を、教育学的な視点から検討し決定した。
- ・ノートの評価は、「ノートを使ってみたいくなる。」「授業が楽しくなる。」「頭のなかでやるべきことが分かる。」「教員とコミュニケーションがとれそう」が、否定的回答数より肯定的回答数の方が有意に多かった。

今後は、肯定的に評価された項目とラグビー実技での適合性、有用性について、実証してゆきたい。

表 4 自由記述の代表的結果

・1日を振り返せると思いました。
・写真などが使われておりとても見やすい。
・自分でノートを書いて提出したときに教員サインだけでなくコメントをもらえると嬉しい。
・分かりやすくまとめられていて、見やすく、覚えやすそう。
・このノートを取り入れると今まで以上に授業が充実しそう。最初から最後まできちんと継続できるかはどちらとも言えない。
・やるべきことややり方などが分かりやすそうだと思います。
・ノートを使っての意思疎通もスポーツに重要だと思った。
・内容が簡単ですぐに書けそうなので継続できそう。
・テストの時とか勉強しやすそう。ノートを使ってスポーツの記録などわかりやすい。
やらなければならないことや反省、課題は明確になるが、毎日継続して書くことは厳しそうだと思った。毎日書くと、何日か同じことを書いてしたりしまいそう。

参考文献

- [1] 飯田路佳 (2016) アクティブ・ラーニングを取り入れた生涯スポーツにおける可能性 (アクティブ・ラーニングとしてのダンス : 主体・共生・創造 保存版!ダンス指導ハンドブック(7)アクティブ・ラーニングによる表現・ダンス指導事例集) (理論編) 女子体育 58(8・9)pp26-31
- [2] 城野印刷所(2015)CLUB サクセスノート ラグビー
- [3] 関西ラグビーフットボール協会 (2016)「ラグビー力向上の切り札」参照日 (2018.3.11)
<http://rugby-kansai.or.jp/23879>
- [4] 黒岩一雄、伊藤宏、大矢隆二、木宮敬信 (2017)「球技ゴール型スポーツにおけるアクティブ・ラーニングの実践的研究 : 学生の主体性を意識した授業展開に着目して」常葉大学教育学部紀要(38) pp271-281
- [5] 文部科学省 (2012^a)用語集「アクティブ・ラーニング」pp37。参照日(2018.3.8)
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf
- [6] 文部科学省 (2012^b)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」pp9。
参照日(2018.3.8)http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf
- [7] 村田芳子(2016)現代的なリズムのダンス : 共通の学修から選択の学修への発展 (アクティブ・ラーニングとしてのダンス : 主体・共生・創造 保存版!ダンス指導ハンドブック(7)アクティブ・ラーニングによる表現・ダンス指導事例集) -- (より進んだ段階(中 3~高 3)) 女子体育 58(8・9)pp76-81
- [8] 日本私立学校振興・共済事業団(私学事業団) (2017)「私立大学・短期大学教育の現状」pp20。
参照日(2018.3.8) <http://www.shigaku.go.jp/files/h28kyouikunogenjyou.pdf>
- [9] 相馬 秀美 (2017) 小学校部会 友達と共に踊る楽しさを味わおう! : 児童の心をつかむ教材づくり (アクティブ・ラーニングとしてのダンス : 主体・共生・創造 : 溢れる想いを表現に) 女子体育 59(2・3) 16-21
- [10] サンスター(2014)「みんなの部活ノート ラグビー」S2618427
- [11] 高橋和子(2015)ダンス指導実践はアクティブラーニング : 指導にすぐに役立つコツとポイント (ダンスの力をすべての人へ 保存版! ダンス指導ハンドブック(6)ダンス指導実践集 : すぐに役立つコツとポイント) 女子体育 57(8・9)pp 4-6
- [12] 八木ありさ (2017) あらためて問う「ダンスならでは」 : 理論と実践の間で (アクティブ・ラーニングとしてのダンス : 主体・共生・創造 : 溢れる想いを表現に)(生涯スポーツ DMIL 認定講座).女子体育 59(2・3) pp52-55

藤野 良孝(保健医療学部健康スポーツ科学科准教授) *1

梶山 俊仁(保健医療学部健康スポーツ科学科教授) *1

中本 光彦(中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科准教授) *2

庄司 直人(保健医療学部健康スポーツ科学科講師) *1

古田 久(埼玉大学教育学部身体文化講座准教授) *3